

# 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果概要

安曇野市教育委員会学校教育課  
教育指導室

「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」が 4 月 18 日に行われ、市内小中学校 17 校でも実施しました。その結果が 7 月 31 日に公表されましたので、その概要を報告します。今後、安曇野市教育委員会として教育施策や教育活動に役立てるため、市校長会と協働して組織した学力向上推進委員会にて結果の分析・考察を行ってまいります。

## 調査の概要

- 調査の名称 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査
- 実施日 平成 31 年 4 月 18 日（木）
- 実施学年 小学校 6 年生（10 校、785 人）、中学校 3 年生（7 校、804 人）
- 調査の内容
  - ①教科に関する調査
    - ・小学校は国語及び算数。中学校は国語、数学および英語。
    - ・昨年度までは、主として「知識」に関する A 問題と、主として「活用」に関する B 問題に分けて調査したが、本年度はこれを一体的に問う。
  - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

## 国語、算数・数学、英語の学力状況

### ●傾向と課題

各調査全体の平均正答率をみると、小学校・中学校の国語は全国や県とほぼ同じであり、中学校数学は、県を少し下回ったものの全国とはほぼ同じでした。平成 28 年度に県、全国を下回った小学校算数は、全国を少し上回り、県を上回るという結果でした。また、今回初めて行われた中学校英語は、長野県が全国を下回る中で、安曇野市の中学校は全国とほぼ同じ結果になりました。

正答数の分布を詳しく見ると、小学校は国語、算数共に正答数のピークが県や全国より 1～2 問下にあります。それにも関わらず平均正答率が全国や県と同じレベルにあるのは、下位の児童が少ないことが要因になっていると思われます。この良さを維持するとともに、中位以上の児童の力を更につけることで、市全体としての力が向上すると考えられます。

中学校英語の正答数の分布は、全国や県と概ね同じですが、従来から行ってきた「書

く」活動で、短時間で正確に書く指導を進めていくことで、更に力がついていくと思われま

一方、中学校数学の正答数の分布は、中位以下にも厚みがあり、このままでいくと学力の2極分化になりかねません。以前から課題になっている「図形」領域を中心とした力をつけていく必要があります。

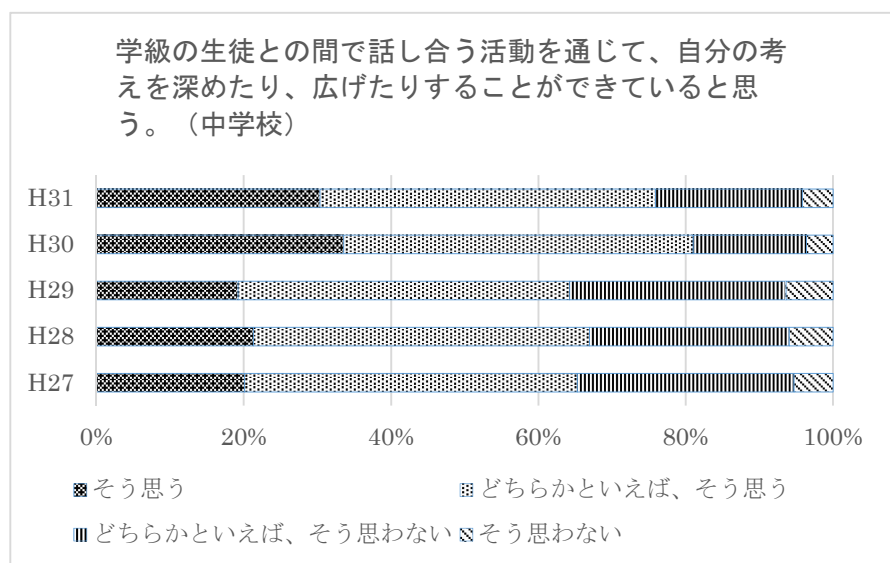
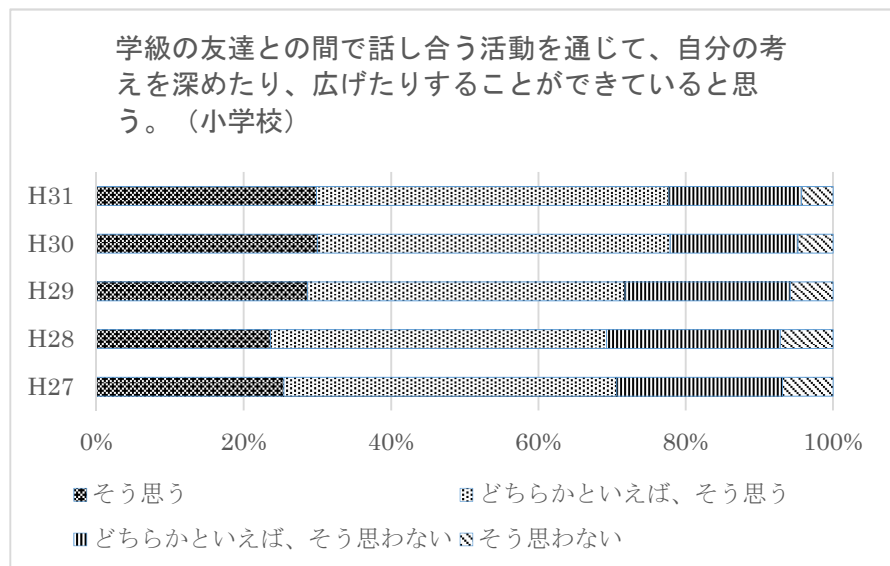
ここ数年の様子を見ると、年によって違いはあるものの、国語では小学校中学校共に「話す、聞く、読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」が身につけている反面、「書く」能力に課題がある傾向があります。算数・数学では「基本的な計算能力」が身につけている反面、前述したように「図形」の領域での特に活用に課題がある傾向があります。

新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」に関わる設問「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると

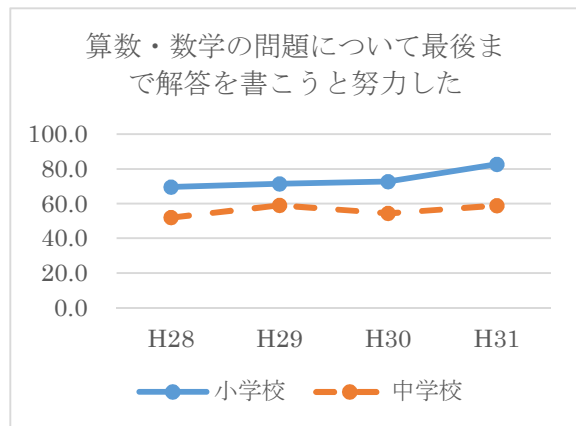
思っていますか」で、「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた肯定的な回答を、小学校では77.6%の児童がしています。昨年度とほぼ同様であり、定着してきていると思われま

す。また、中学校では、昨年度には及ばなかったものの、75.8%の生徒が肯定的回答をしており、「学び合い」等を取り入れた授業改善が進んでいる様子が見え

て、学習意欲や粘り強さの減少傾向が考えられるのではない



かと懸念された設問で「算数・数学の問題について最後まで解答を書こうと努力した」と答えた小学生の割合は 82.8%であり、昨年度の 72.7%を大きく上回りました。中学生も昨年度の 54.4%を上回る 59.0%であり、改善傾向がみられます。昨年度までの「家で学校の宿題をしていますか」という設問は、今年度はなくなりましたが、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という設問での肯定的回答は、小中ともに全国を上回っています。



### 【小学校の傾向と課題】

国語では、話す・聞く能力、および読む能力については、概ね身につけていると思われれます。特に昨年度の課題であった「話し手の意図を捉えながら聞く」ことを問う設問【3一】【3三】は全国を上回り、改善が見られました。一方、書く能力に関しては全国を少し下回る結果でした。相手に分かりやすく情報を伝えるための記述の仕方の工夫を捉えたり、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書いたりすることに課題が見られました。説得力をもって自分の考えを伝えるために調査したことを報告する文章では、調べてわかった事実を基に自分の考えをまとめて書くことができるように指導していくことが必要であると思われれます。

算数では、全ての領域で県・全国平均を上回る結果となりました。特に【1(3)】の「示された図形の求め方を解釈し、その求め方を記述する」ことを問う問題では国を大きく上回っていました。また【4(3)】の「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断する」問題も正答率が上回っていました。一方、「基準の約何倍かを棒グラフを使って読み取る」という問題では、全国の下回っています。また、【3(4)】の「示された除法の式の意味を理解しているか」という問題の正答率も少し下回っています。このことから、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断したりする学習、計算の仕方の解釈と発展的な考察(計算の工夫)について学習する際に適用する数の範囲を広げていながら統合的、発展的に考え、計算に関して成り立つ性質を見出し、表現する学習を大事にしていく必要があると思われれます。

### 【中学校の傾向と課題】

国語では、「書くこと」を除く全ての領域で県の平均を上回る結果となりました。「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことを問う設問【1二】や、「封筒の

書き方を理解して書く」ことを問う設問【1四】、「話し合いの話題や方向を捉える」ことを問う設問【2一】は、全国平均や県平均を上回る結果となり、定着の高さが伺えます。一方、「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」ことを問う設問【3一】や、「文章の構成や展開、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつ」ことを問う設問【1一】では、正答率が全国と県の平均を下回る結果となりました。論の内容を正確に捉えて、ふさわしい語句や文の使い方を検討する力や、根拠を明確にして自分の考えを表現する力をつけるような指導が必要だと思われます。

数学では、「関数」の領域では国との比較で平均点を少し下回り、「数と式」「資料の活用」の領域では県と国との比較で平均点を少し下回り、「図形」の領域では、県との比較では少し下回り、国との比較では下回る結果となりました。

しかし、【4】の比例の表から式を求める問題や、【8(1)】、【8(2)】の資料を整理した表から最頻値を読み取るもの、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題は国との比較で上回る結果となりました。

また、昨年度に引き続き、【7(3)】のような結論が成り立つための前提を考え、新たな性質の見出し方へのさらなる指導が必要だと思われます。

英語では、各領域において県平均を上回る結果となりました。特に「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する」ことを問う設問【2、3】、また「簡単な英語で書かれた文章の内容を正確に読み取る」設問【5(1)】では、全国や県の平均を上回る結果となりました。一方、文の中に適切な接続詞を補う設問【9(1)】や、英文の内容を最も適切に表している絵を選ぶ設問【5(2)】、文章を読んで話のあらすじや大意を理解する設問【7】では、全国平均を下回る結果となりました。まとまりのある文章の中で、前置詞や接続詞などのキーワードを見つけて概要や要点をとらえて読む練習が必要だと思われます。「書くこと」では、無解答率が国や県平均より低く、表現しようとする意欲が見られますが、自分の考えを相手に伝わる英語で表現する練習場面を増やしていくことが必要だと思われます。

### 【平均正答率の比較】

<平均正答率表記について>

#### 【全国・県の平均正答率に対する比較の目安】

記号	意味	正答率差
☆☆☆	大きく上回っている	4.0以上
☆☆	上回っている	2.0～3.9

☆	少し上回っている	1.0～1.9
○	ほぼ同じ	±0.1～±0.9
▽	少し下回っている	-1.0～-1.9
▽▽	下回っている	-0.2～-3.9
▽▽▽	大きく下回っている	-4.0 以下

「☆☆☆ (大きく上回っている)」とは…

教科に関する調査の結果について、次表では、「☆」「○」「▽」などの記号を用いて表現しています。これは、上記表に基づく基準で、それぞれの意味があります。例えば、全国の正答率が 80.0、市の正答率が 84.0 だった場合、正答率の差が 4.0 以上となり、「記号…☆☆☆、意味…大きく上回っている」となります。

#### <小学校 国語>

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	○	○
話すこと・聞くこと	☆☆	☆
書くこと	▽▽	▽
読むこと	☆☆	☆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○	○

#### <小学校 算数>

内 容	全国との比較	県との比較
算数全体	☆	☆☆
数と計算	○	☆
量と測定	☆☆	☆☆
図形	○	☆
数量関係	○	☆

#### <中学校 国語>

内 容	全国との比較	県との比較
国語全体	○	○
話すこと・聞くこと	☆	☆
書くこと	○	○
読むこと	○	○

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	☆☆	☆
----------------------	----	---

<中学校 数学>

内 容	全国との比較	県との比較
数学全体	○	▽
数と式	▽	○
図形	▽▽	▽
関数	○	○
資料の活用	○	○

<中学校 英語>

内 容	全国との比較	県との比較
英語全体	○	☆☆
聞くこと	☆	☆☆
話すこと（参考実施のためデータなし）		
読むこと	○	☆☆
書くこと	▽	☆

**生活環境や学習状況**

●傾向と課題

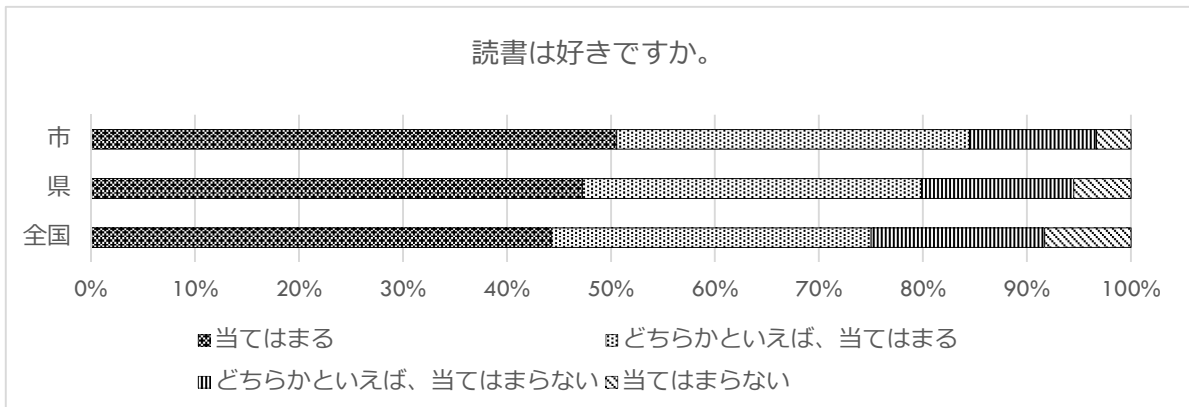
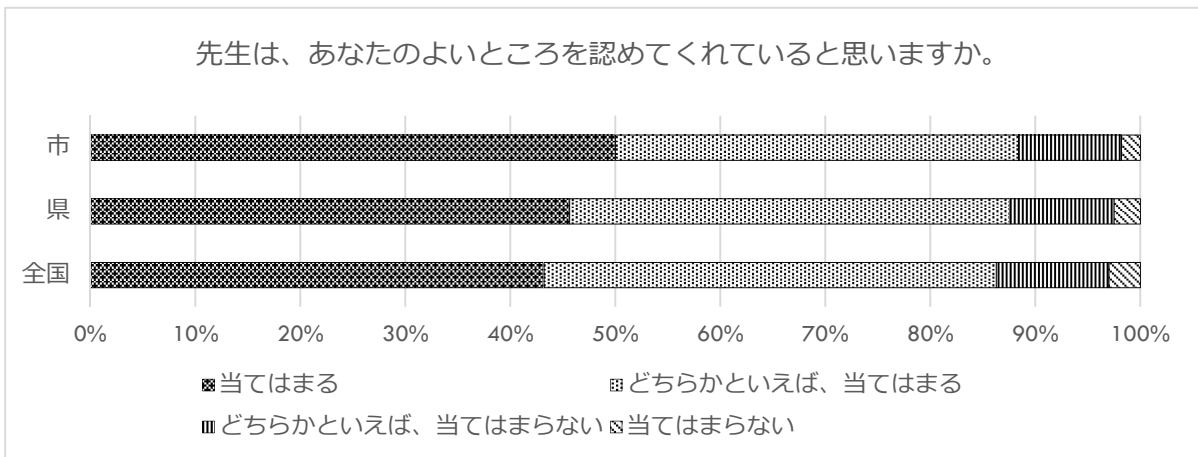
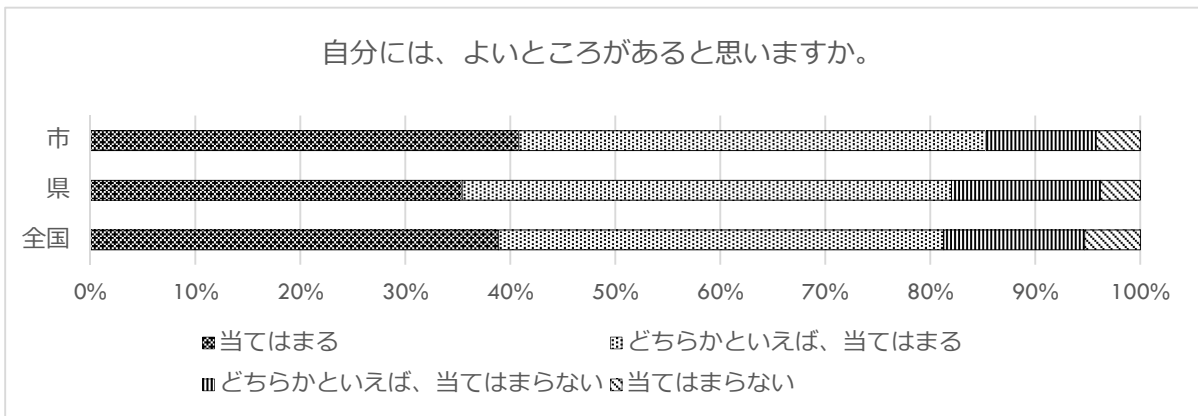
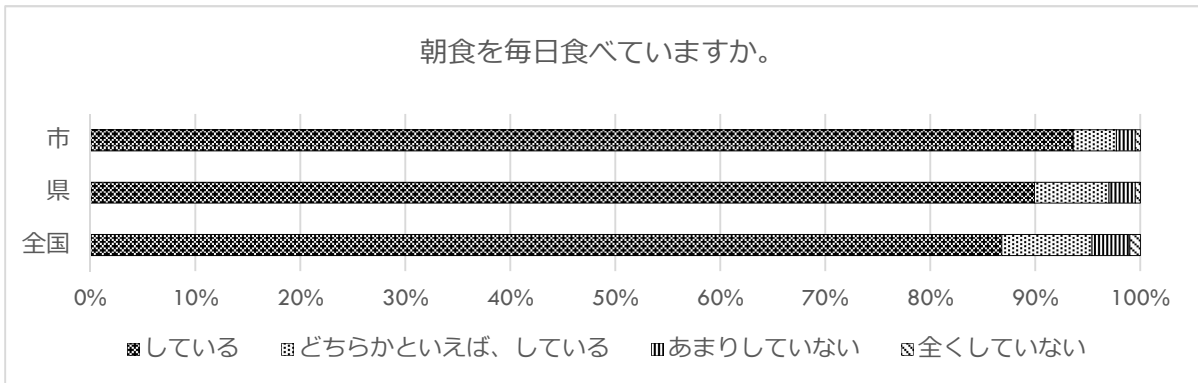
小学校・中学校ともに、生活環境や学習状況に関わる児童生徒質問紙の多くの項目で、全国や県の平均を上回っており、安曇野の子どもたちの良さがうかがわれます。

朝食を毎日食べることや、起床・就寝時刻が一定していることから、規則正しい生活をおくっていることがうかがわれます。また、「自分には、よいところがあると思いますか」と「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的回答の多さから、安曇野市の児童生徒が自己肯定感をもち、先生方がそれを認めていることがわかります。

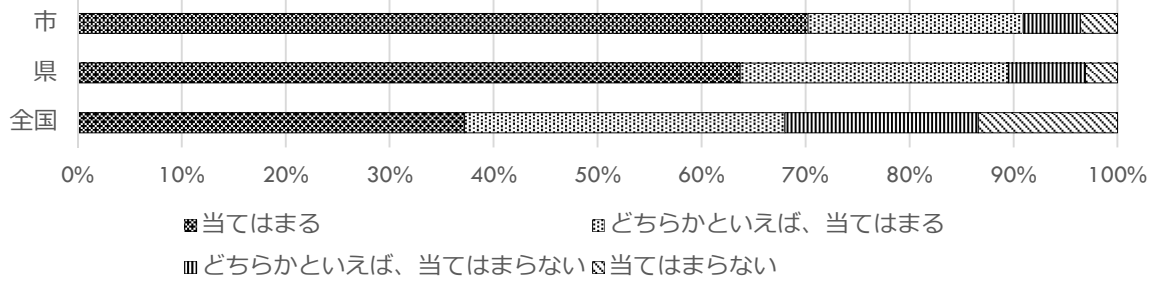
そのほか、読書が好きなことや地域行事に参加する児童生徒が多いことも、安曇野市の特徴です。また、昨年度キャリア教育に関わる課題として挙げられた「将来の夢を持っていますか」でも、県や全国を上回っています。

一方、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思いますか」という設問に対する肯定的回答は、小中ともに全国を下回っており、児童生徒の課題意識に基づいた総合的な学習の時間の充実が求められます。

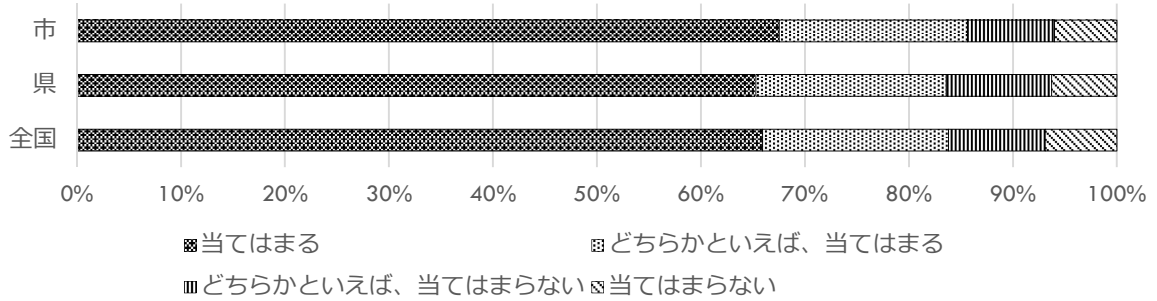
【小学校のグラフ】



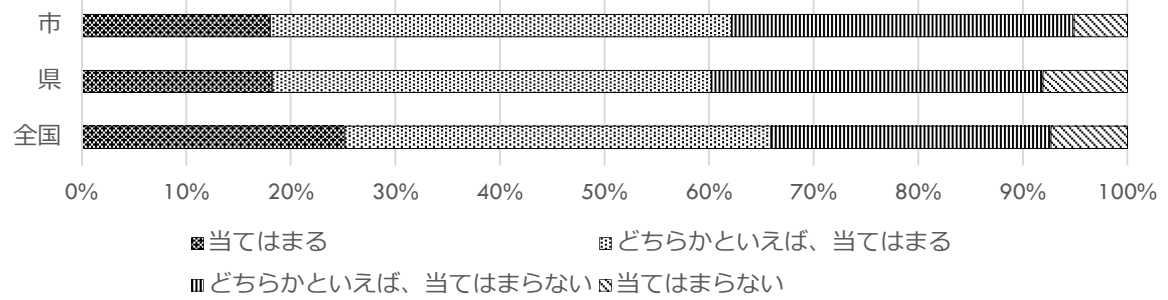
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



将来の夢や希望を持っていますか。

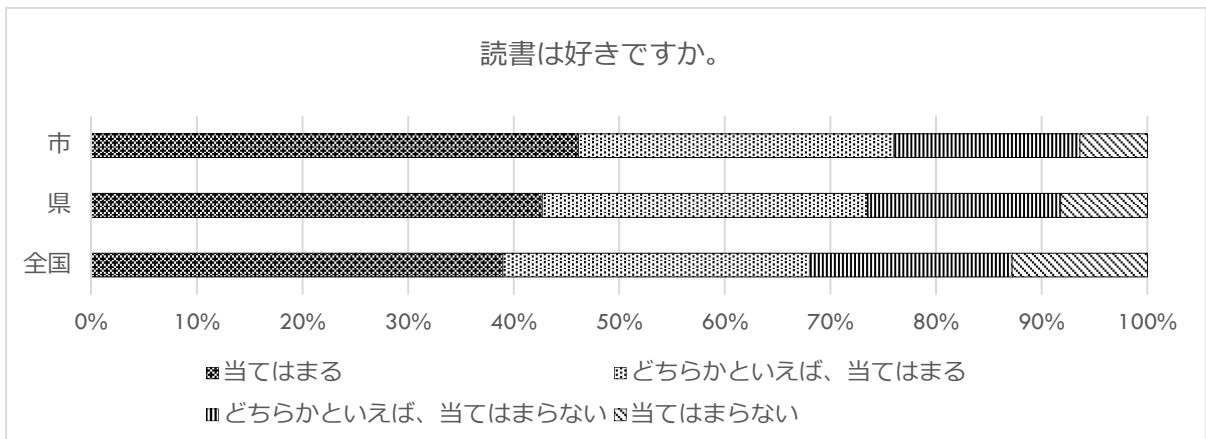
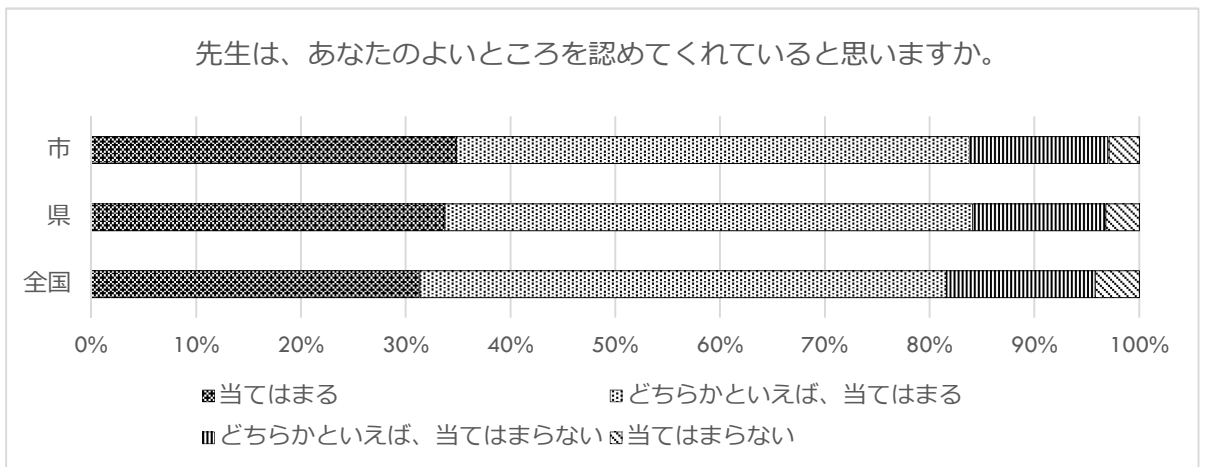
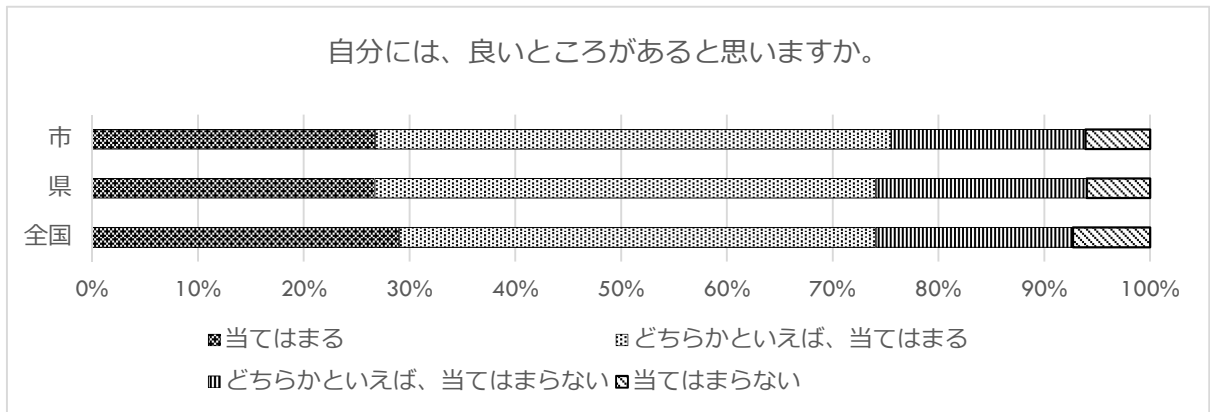
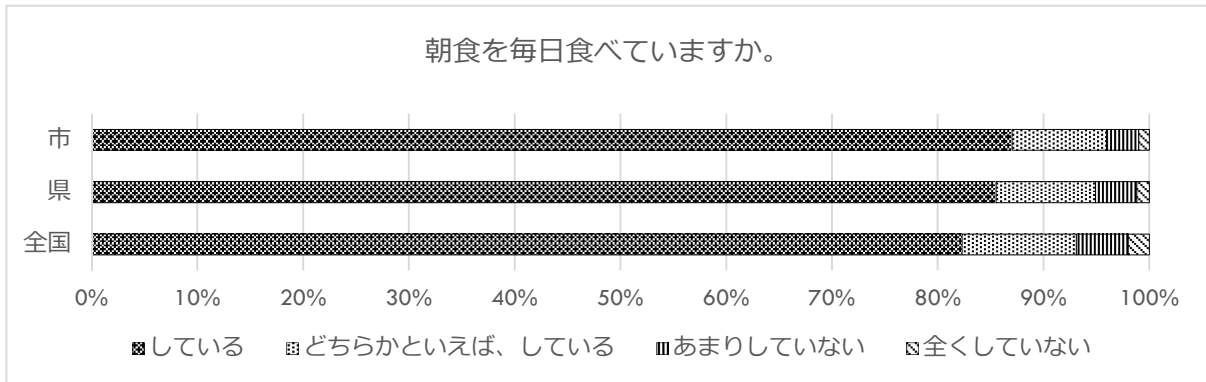


総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。

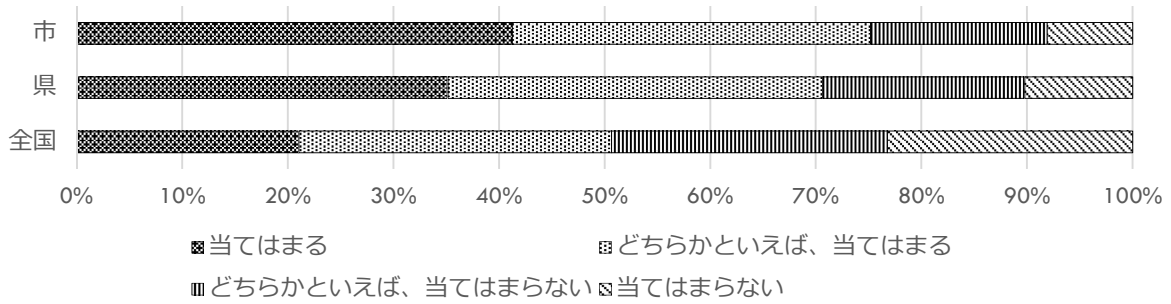




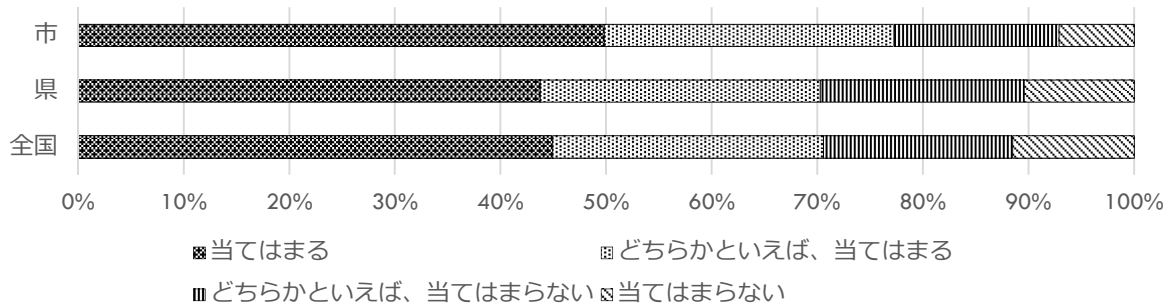
【中学校のグラフ】



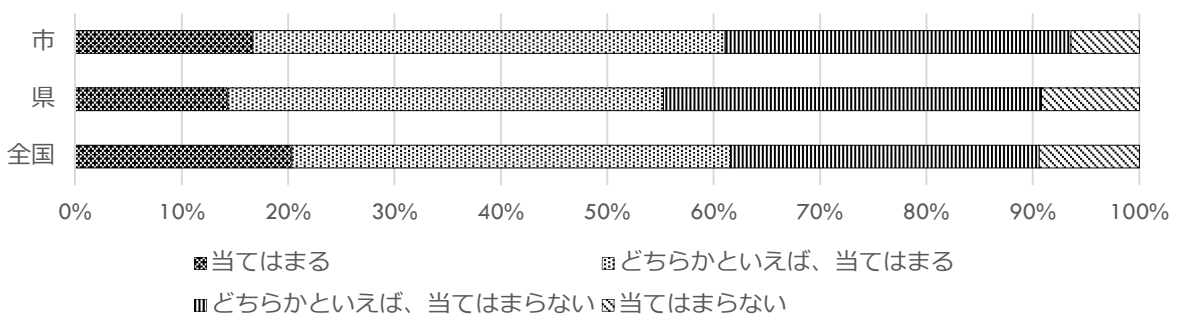
今住んでいる地域の行事に参加していますか。



将来の夢や希望を持っていますか。



総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



## 調査の今後の活用

市教育委員会と各校は、調査を通して把握した児童生徒の実態を教育施策や教育活動に役立てていくために、関係機関と連携しながら次のような取組を行います。

市教育委員会は、

- (1) 全国・学力学習状況調査の分析からみえてくる児童生徒や学校の良さや課題を、日々の教育活動に活かせるように支援していきます。
  - ① 国や県の動向を注視し、今日求められる学力とそれに対する学び方や指導・支援のあり方についての方向性を示します。(学力向上推進委員会など)
  - ② 学校の願いに応じながら、教育指導室の学校訪問等で日々の授業改善を支援します。
- (2) 授業や学校生活、家庭学習などにみられる教育課題に対応していくために、市校長会や市教育会と連携して、調査・研究を行ったり、小中学校間の教職員の交流や研修などを推進したりしていきます。
  - ① 各校で開催される授業研究会や研修会に他校からも参加できるようにし、月ごとの公開授業・研修会を、各校の協力を得て市内小中学校に発信していきます。

各校は、

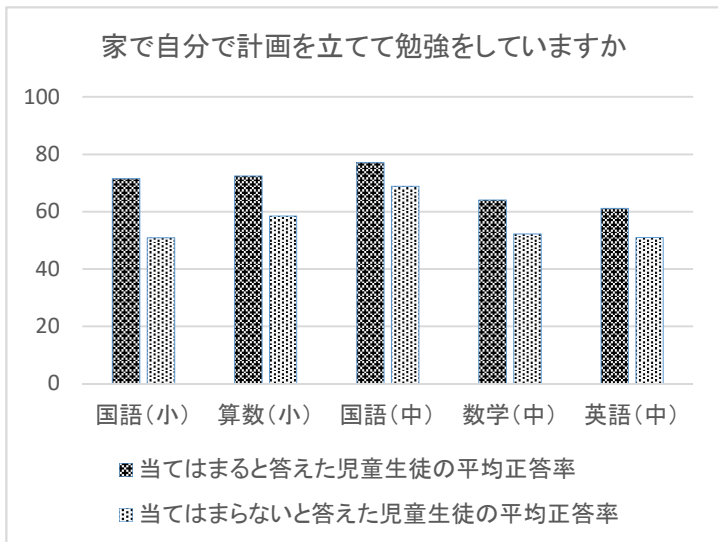
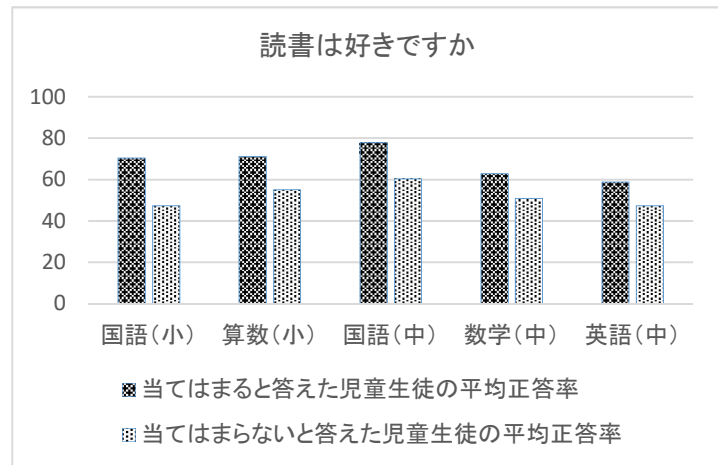
- (1) 自校の傾向や課題を把握・分析し、指導内容や指導方法の改善に活かすようにしていきます。そのために、以下の点にも配慮します。
  - ① 明らかに落ちている又は伸びている問題の分析をする。
  - ② 回答数が低い(0～2問程度)児童・生徒の分析をする。
  - ③ 当該学年、当該教科だけの課題にするのではなく、全校の授業改善の課題にするために、Q-UやCRTなどの検査等と関連付けて分析する。
  - ④ 「安曇野市学力・体力向上4カ年計画」(昨年度でまとめ終了)の観点からも分析する。
  - ⑤ 必要な補充・補完を計画し実施する。
- (2) 「児童(生徒)質問紙」や「学校質問紙」からみえてくる良さや課題を、日々の指導や教育活動に活かしていきます。
- (3) 児童生徒が、授業や学校生活、家庭学習などについて自分の課題を知り、自ら改善していくことができるように、児童生徒と各家庭へ具体的な指導・助言や支援を行っていきます。
- (4) 学校での学習や生活の基本的な習慣を形成するとともに家庭学習の定着のために、市教育委員会や家庭、地域と連携をしながら取り組んでいきます。また、様々な機会を通して家庭に協力を呼びかけたり、支援をしたりしていきます。

## 比較的正答率が高い傾向にある子どもの生活の様子

学力調査結果と学習状況調査結果のクロス集計を分析すると、次に示す項目において、「している」「当てはまる」「そう思う」と答えた児童生徒の正答率が比較的高い傾向がみられました。

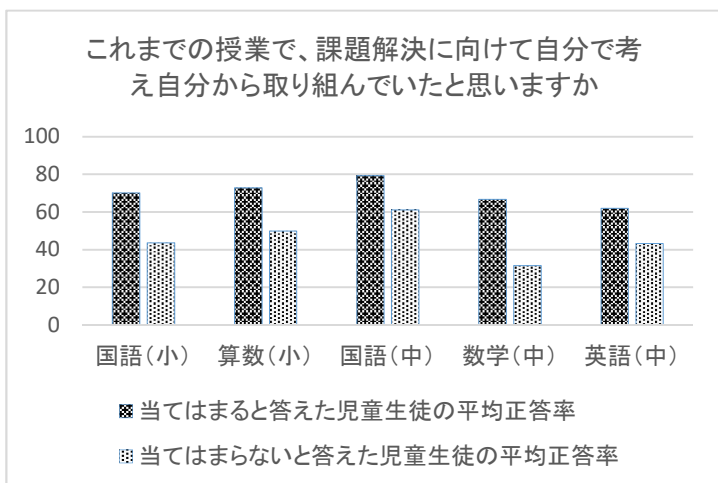
### 【小・中共通】

- ◇読書は好きですか。
- ◇新聞を読んでいますか。
- ◇家で自分で計画をたてて勉強をしていますか。
- ◇学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思っていますか。
- ◇授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。
- ◇総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。
- ◇国語の授業の内容はよくわかりますか。



### 【小学校】

- ◇5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。
- ◇5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
- ◇国語の勉強は好きですか。



- ◇国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか。
- ◇算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。

### 【中学校】

- ◇家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。
- ◇学校の規則を守っていますか。
- ◇1，2年の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
- ◇1，2年の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。
- ◇英語の勉強は大切だと思いますか。
- ◇英語の授業はよくわかりますか。
- ◇あなたは、将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思いますか。
- ◇1，2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか。